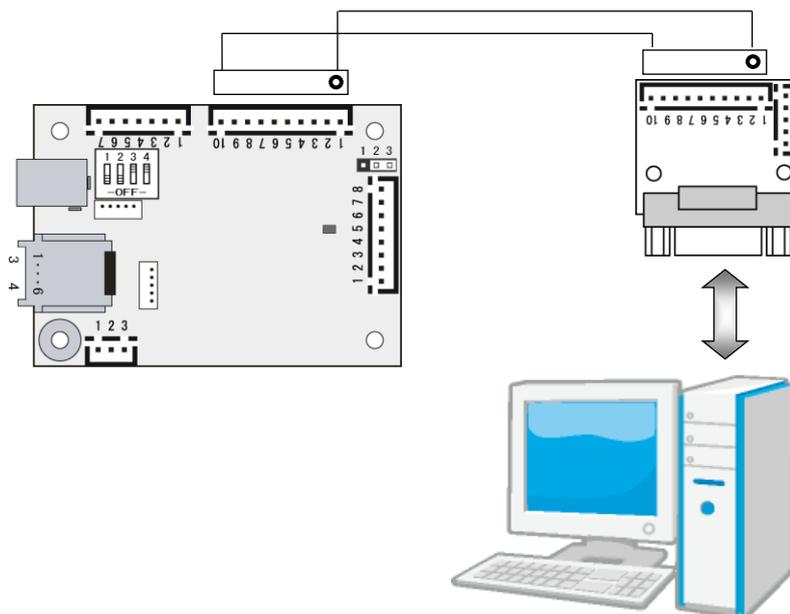


電話回線制御ユニット (TK-7590A/AV)

ATコマンドによる設定例

■目次

1	概要	1
2	フリーソフト「Tera Term」の設定	1
3	音声データのアップロード (AVのみ)	2
4	設定の保存	4
5	出荷時設定に戻す	4
6	設定手順	4
7	自動着信と識別自動着信	5
8	押しボタン操作でON/OFF	6
9	各種動作状態の接点出力	9
10	グループ通報	11
11	外線電話機から遠隔放送を行う	12
12	回線モニター	13
13	疑似交換機のご案内	14



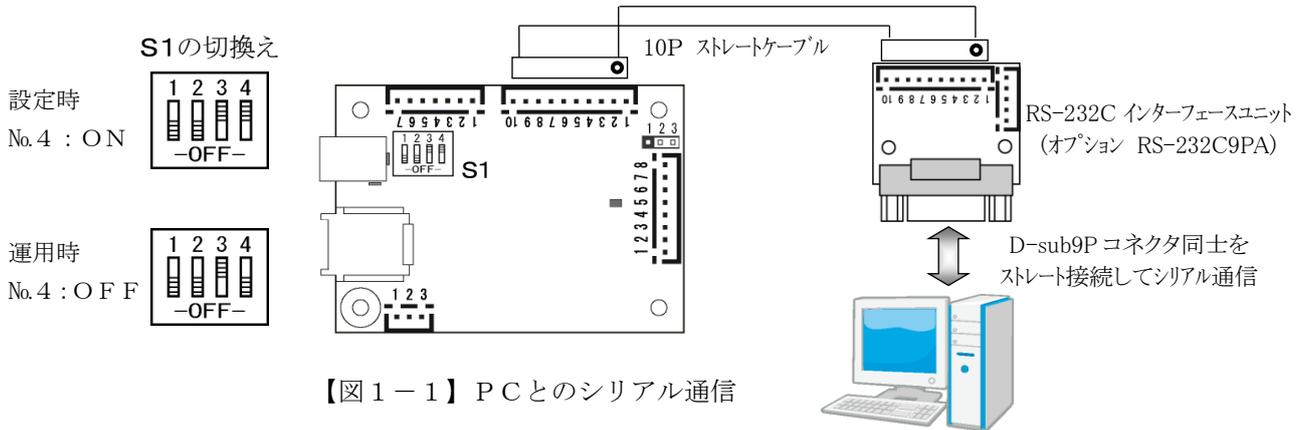
■ 1 概要

シリアルインターフェースオプションを取り付けると、一般的なパソコンから、設定の参照変更が可能です。

設定例では、フリーソフト「Tera Term」を使用して、設定を行っていきます。

設定の詳細は「リファレンスマニュアル」を参照して下さい。

【図1-1】のように、RS-232Cインターフェースを介してパソコンのRS-232Cコネクタと、ストレートケーブルで接続します。設定時、ディップスイッチS1は、「No.3 : ON」「No.4 : ON」にします。設定終了後は、「No.4 : OFF」にします。



■ 2 フリーソフト「Tera Term」の設定

- ・「設定」メニューの「シリアルポート」を開き、ポート以外を【図2-1】のようにし、「OK」をクリックします。
※ポートは、ご使用のパソコンと本製品が接続されているポートを指定して下さい。
- ・「設定」メニューの「端末」を開き、「改行コード」の「受信」を【図2-2】のようにし、「OK」をクリックします。
- ・「AT」を入力し、「Enter」を押下し、「OK」が返ってくれば、準備完了です。（【図2-3】を参照）
※ポートを開いた直後は、「ERROR」が返ることがありますので、「OK」が返るまで「AT」を入力し、「Enter」を押下して下さい。

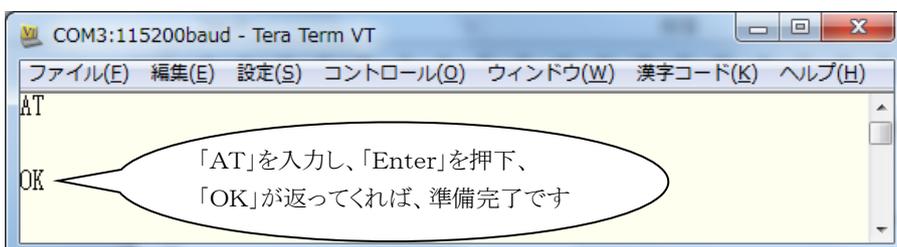
【図2-1】 シリアルポート設定



【図2-2】 端末の設定



【図2-3】 動作確認



■ 3 音声データのアップロード (AVのみ)

ウェーブファイルを、指定した音声メモリー番号 (0～99) にアップロードします。

※ウェーブファイル (.wav) は、非圧縮PCM、8 KHz サンプリング、8ビット/16ビット、モノラルのものをご用意下さい。

ご使用になるパソコンによって、録音や変換方法が異なるため、パソコンのヘルプ等を利用してご用意下さい。

※本装置は、デフォルト設定の場合、「自動発・着信時には音声メモリーNo.0を自動再生」します。

◇音声メモリーNo.0に、「Test.wav」ファイルの内容を保存する場合

「AT#VTM=0」コマンドを入力し、「CONNECT」が返って来たのを確認後、(【図3-2】を参照)

「ファイル」メニューの「ファイル送信」を開き、ウェーブファイルの選択とバイナリにチェックを入れ「開く」をクリックします。

(【図3-1】を参照)。アップロードが始まり、「OK」が返ってくれば完了です。(【図3-2】を参照)

◇音声メモリーNo.0のデータを消去する場合

「AT#VMC=0」

◇音声メモリーNo.0～No.99のデータを全て消去する場合

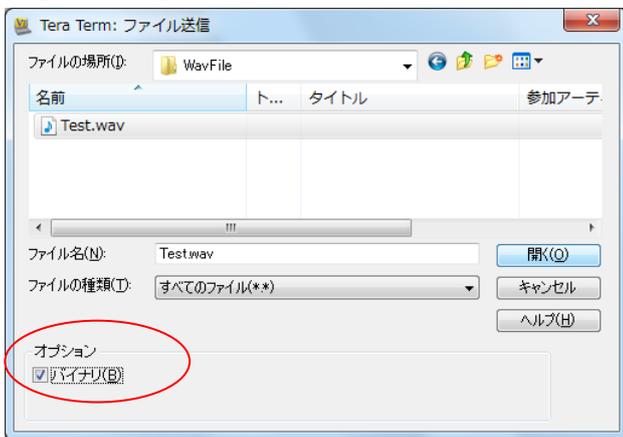
「AT#VMC=ALL」

※消去時間は、データの大きさによって変わり、1秒～最長160秒かかりますので、消去中に電源が落ちないようにご配慮下さい。

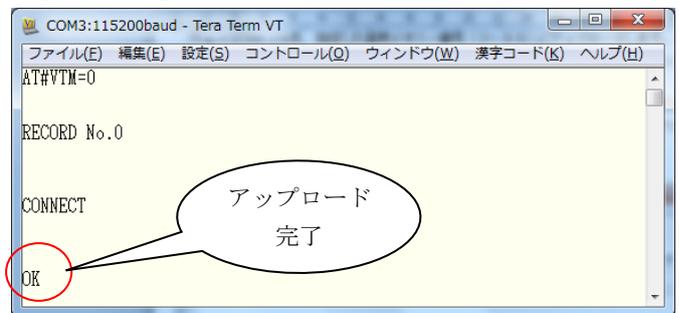
消去が完了すると、「<DLE><ETX>」(16進数で、10H 03H)を返しますが、画面には表示されませんのでご留意下さい。

消去中に、音声関係のコマンドを送ると、「ERROR」を返します。

【図3-1】ファイル送信



【図3-2】アップロード完了時の表示



[参考]

本書はPCでのATコマンドによる設定例の解説ですが、音声録音については【図3-3】のように、「外線電話機」より本機に架電、自動着信させた後、「外線電話機」のDTMFコマンド、及びハンドセットのマイクによる簡便な“直接録音”も可能です。

★音声メモリー番号1にメッセージを録音・再生・消去を行う場合

①準備：ディプスイッチのNo.3、4をONにし「自動着信」、「設定モード」に入る → 「ピピ…ピピ…」音、確認

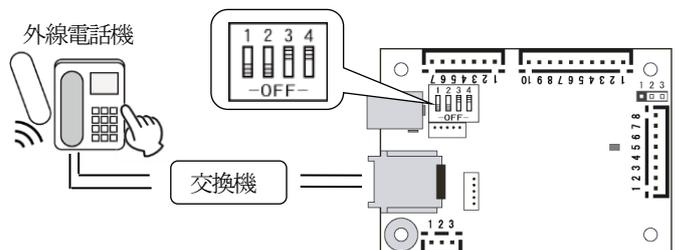
②録音：「#8601*」で「ピッピッピ」の後、録音の“開始” → 「#」で“停止”、「ピー」音で終了

③再生：「#8501*」で「ピッピッピ」の後、録音の“再生” → 「ピー」音で終了

④消去：「#8401*」で録音の“消去” → 「ピー」音で終了

※②、③、④ではいずれも、一連の操作を「ピー」音確認で終了した後、放置すると①の「ピピ…ピピ…」音の待機状態に戻ります。

DTMFコマンド	内容	音声メモリー番号
#86uu*	音声の録音	uu:00～99 (2桁で指定)
#85uu*	録音済みの音声を再生	
#84uu*	録音済みの音声を消去	



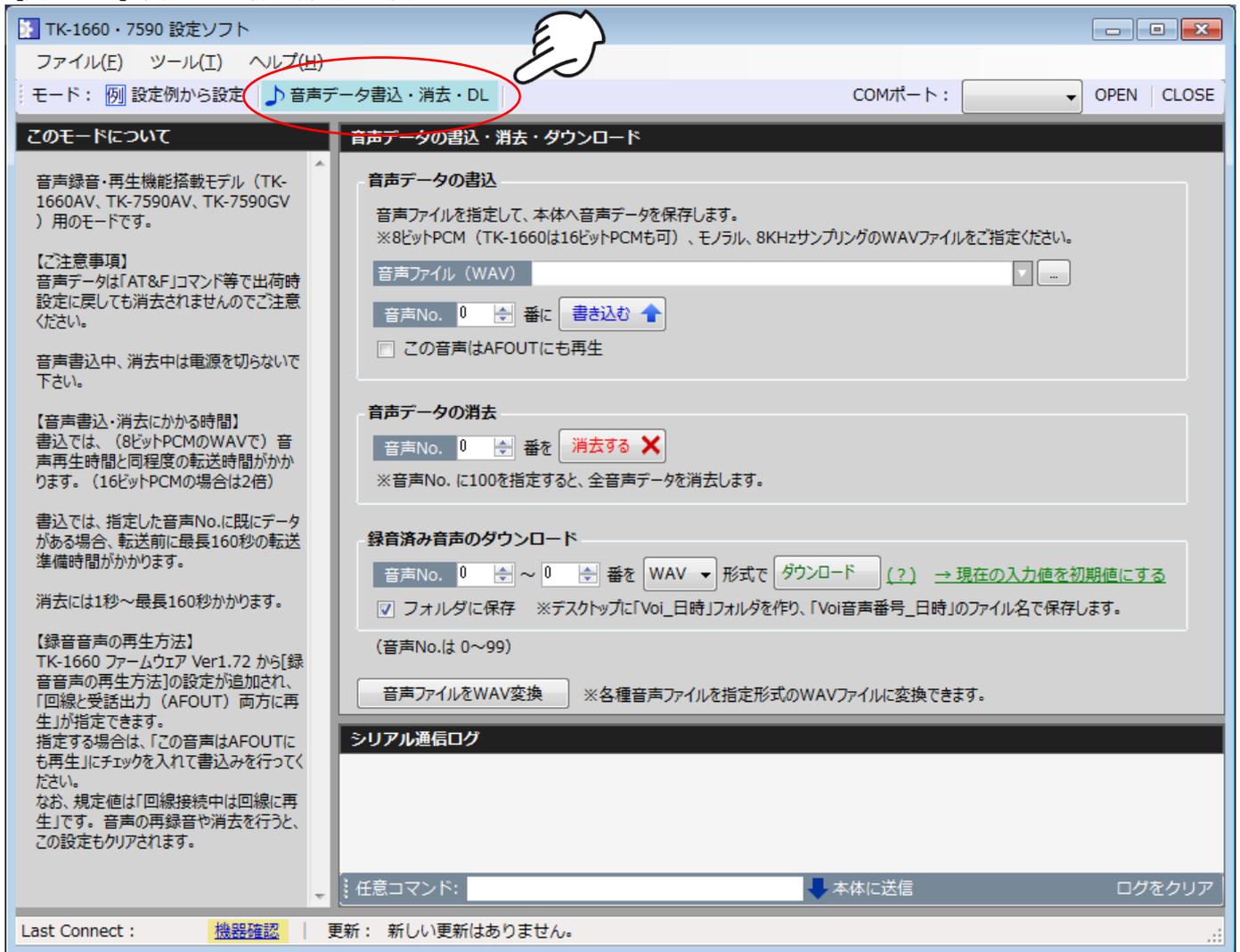
【図3-3】外線電話機で直接録音

なお、これらの操作は【図13-1】でご案内する「疑似交換機」をご利用いただくと便利です

●TK-1660・7590設定ソフトについて

前項で説明しました一連の「音声データの書き込みと消去」については、以下の「TK-1660・7590設定ソフト」をご利用いただくと容易です。弊社ホームページより設定ソフト（フリーソフト）をダウンロードしてください。

【図3-4】音声データ書き込み/消去 設定ソフト



「音声No.0」のメッセージは、本装置が自動着信を行うと最初に起動するメモリーです。録音していなければ、通常着信します。
「音声No.1～99」は通常使用の登録メモリー番号になります。

A Vの場合は自動着信直後、「音声メッセージNo.0」を再生します。録音していなければ通常動作します。

■ 4 設定の保存

以降で解説する各種設定においては、設定後に「AT&W」コマンドを入力し、「Enter」を押下し設定の保存を行います。

※設定の保存を行わないと、電源を切ると、変更した設定は失われます。

■ 5 出荷時設定に戻す

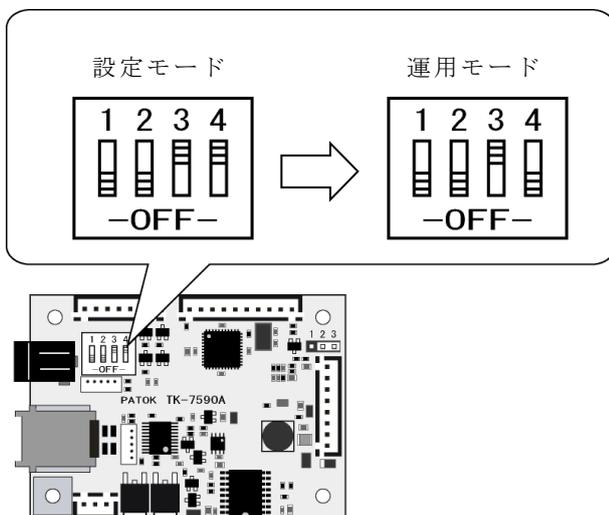
各種の設定をクリアして出荷時に戻すには「AT&F」コマンドを入力し、「Enter」を押下します。

※以降の設定例では、コマンドの後の「Enter」押下を省略していますので、コマンド入力後に「Enter」を押下して下さい。
※以降の設定例では、この出荷時設定を元としています。

■ 6 設定手順

次の4項目を実施してください。

- ① ディップスイッチS1のNo.4をON（設定モード）にする。



- ② 設定作業前に「AT&F」コマンドで出荷時に戻すことをお勧めします。
- ③ 設定終了後は「AT&W」コマンドで設定の保存を実行してください。
- ④ ディップスイッチS1のNo.4をOFF（運用モード）に戻す。

上記の4項目は各設定に関連する事項ですが、本書では簡素化のため記載を省略します。

次ページの例で

“●10回のコールで自動着信を行うには” の設定手順は

S1のNo.4をON	セットモードにする	記載省略
AT&F	出荷時設定にする	記載省略
ATS0=10	呼出信号を10回検出したらオフフック	
AT&W	設定を保存（これで電源をOFFにしても設定は保存されます）	記載省略
S1のNo.4をOFF	動作モードに戻す	記載省略

ですが、本書では

ATS0=10	呼出信号を10回検出したらオフフック
---------	--------------------

のように「目的コマンドのみの記載」方法で進めます。

■ 7 自動着信と識別自動着信

A Vの場合は自動着信直後、「音声メッセージNo.0」を再生します。録音していなければ通常動作します。

- 10回のコールで自動着信を行うには

ATS0=10	呼出信号を10回検出したらオフフック
---------	--------------------

- 自動着信を行わないようにするには

AT!VF16	CN5をシリアルインターフェース入出力に設定
ATS0=0	自動着信を行わない

- 3回のコールで識別自動着信を行うには

識別自動着信を行うには、相手方電話番号を登録する必要があります。

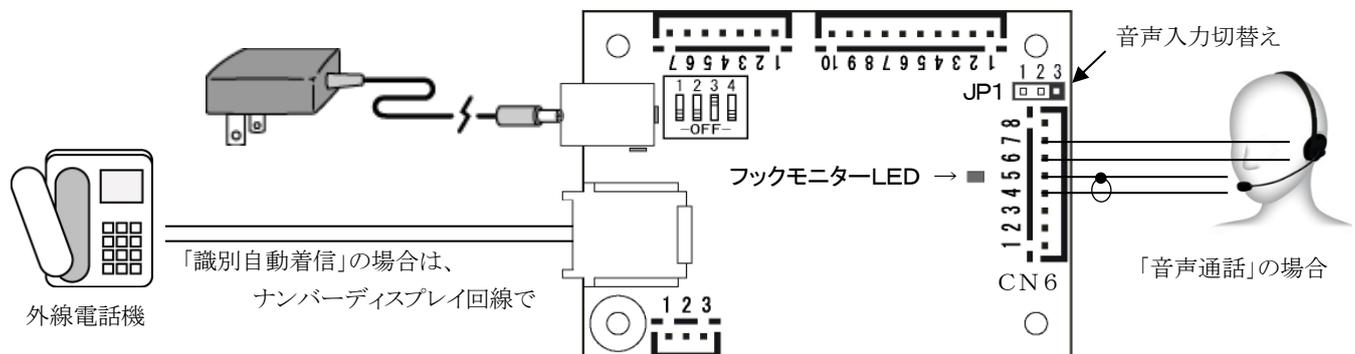
(登録電話番号を0827-24-0081と0827-24-1444にした場合)

AT&Z10=0827240081	メモリー番号10に電話番号0827-24-0081を登録する
AT&Z11=0827241444	メモリー番号11に電話番号0827-24-1444を登録する
AT!C1	電話番号がグループ1の登録内容と一致した時、自動着信を許可する
ATS0=3	呼出信号を3回検出したらオフフック

※識別自動着信を使用するとき、市外局番を省略することは出来ません

- コンデンサマイク式のヘッドセットを使って外線電話機と音声通話を行うには

音声入力切替え用のジャンパーピン(JP1)を1-2間短絡



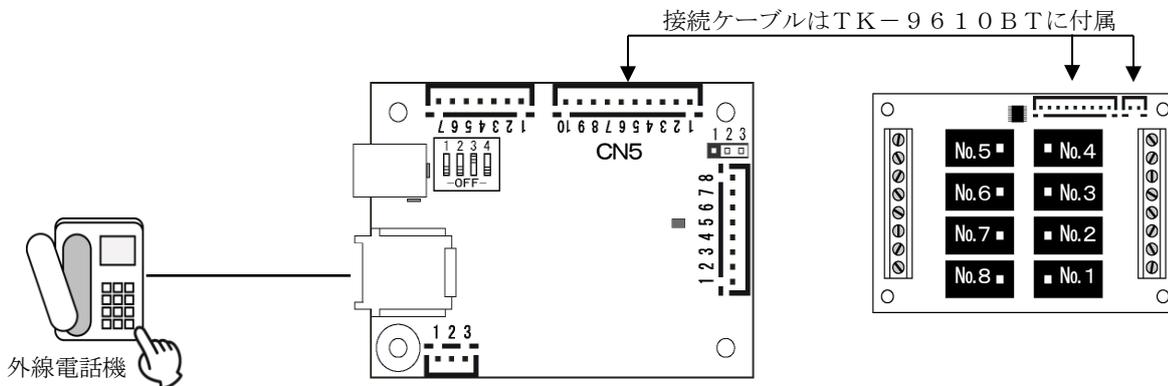
【図7-1】自動着信の基本接続

■ 8 プッシュボタン操作でON/OFFを行う設定

自動応答中に、プッシュボタン式電話機のプッシュボタン操作で、ON/OFFを行います。

[A] CN5にリレーボード（TK-9610BT）を接続して行う

（以下、設定はじめの項目に AT!VF3 を入れ、CN5の用途をTK-9610BT用にします）



【図8-1】CN5をTK-9610BT制御専用コネクタとして設定、各種リレー操作を行う

例1) 自動着信後、外線電話機の [1] ~ [8] をプッシュするとNo.1~8のリレーがON、放すとOFFする

AT!VF3	CN5の用途を8制御出力に設定
AT!SF0=6!SF1=6!SF2=6!SF3=6!SF4=6!SF5=6!SF6=6!SF7=6	制御出力0~7 (CN5のNo.2~No.9) を6の動作 (ワンプッシュ動作) に設定
AT!SB0=1!SB1=2!SB2=3!SB3=4!SB4=5!SB5=6!SB6=7!SB7=8	制御出力0~7 (CN5のNo.2~No.9) をDTMF [1]~[8] に設定
AT!SE0=1!SE1=1!SE2=1!SE3=1!SE4=1!SE5=1!SE6=1!SE7=1	制御出力0~7 (CN5のNo.2~No.9) が受信した信号に応じた動作を行う

※上記設定後は、AT&W (設定の保存) を行い、電源を入れ直します。

例2) 自動着信後、外線電話機の

[2] を押すとNo.1のリレーがON、放すとOFF [4] を押すとNo.2のリレーがON、放すとOFF

[6] を押すとNo.3のリレーがON、放すとOFF [8] を押すとNo.4のリレーがON、放すとOFF

AT!VF3	CN5の用途を8制御出力に設定
AT!SF0=6!SF1=6!SF2=6!SF3=6	制御出力0~3 (CN5のNo.2~No.5) を6の動作 (ワンプッシュ動作) に設定
AT!SB0=2	制御出力0 (CN5のNo.2) をDTMF [2] に設定
AT!SB1=4	制御出力1 (CN5のNo.3) をDTMF [4] に設定
AT!SB2=6	制御出力2 (CN5のNo.4) をDTMF [6] に設定
AT!SB3=8	制御出力3 (CN5のNo.5) をDTMF [8] に設定
AT!SE0=1!SE1=1!SE2=1!SE3=1	制御出力0~3 (CN5のNo.2~No.5) が受信した信号に応じた動作を行う

※上記設定後は、AT&W (設定の保存) を行い、電源を入れ直します。

例3) 自動着信後、外線電話機の

特定のDTMF信号を受信するとONになり保持し、それ以外のDTMF信号を受信するとOFF

(ここでは特定のDTMF信号を[*]とする)

AT!VF3	CN5の用途を8制御出力に設定
AT!SF0=7	制御出力0 (CN5のNo.2) を7の動作 (ワンプッシュラッチ動作) に設定
AT!SB0=11	制御出力0 (CN5のNo.2) をDTMF [*] に設定
AT!SE0=1	制御出力0 (CN5のNo.2) が受信した信号に応じた動作を行う

※上記設定後は、AT&W (設定の保存) を行い、電源を入れ直します。

例4) 自動着信後、外線電話機の [1][*]~[8][*]をプッシュするとNo.1~8のリレーがON、
[1][#]~[8][#]をプッシュするとNo.1~8のリレーがOFFする

AT!VF3	CN5の用途を8制御出力に設定
AT!SF0=8!SF1=8!SF2=8!SF3=8!SF4=8! !SF5=8!SF6=8!SF7=8	制御出力0~7 (CN5のNo.2~No.9)を8の動作(メモリー照合ラッチ動作)に設定
AT!X0=1!X1=2!X2=3!X3=4!X4=5!X5=6! !X6=7!X7=8	制御出力0~7 (CN5のNo.2~No.9)でONにするメモリー番号を1~8に設定
AT!Y0=21!Y1=22!Y2=23!Y3=24!Y4=25! !Y5=26!Y6=27!Y7=28	制御出力0~7 (CN5のNo.2~No.9)でOFFにするメモリー番号を21~28に設定
AT!SE0=1!SE1=1!SE2=1!SE3=1!SE4=1! !SE5=1!SE6=1!SE7=1!SE8=1	制御出力0~7 (CN5のNo.2~No.9)が受信した信号に応じた動作を行う
AT&Z1=1*&Z2=2*&Z3=3*&Z4=4*&Z5=5* &Z6=6*&Z7=7*&Z8=8*	メモリー番号1~8にDTMF[1][*]~[8][*]を登録
AT&Z21=1#&Z22=2#&Z23=3#&Z24=4#&Z 25=5#&Z26=6#&Z27=7#&Z28=8#	メモリー番号21~28にDTMF[1][#]~[8][#]を登録

※上記設定後は、AT&W(設定の保存)を行い、電源を入れ直します。

例5) 自動着信後、外線電話機の [1][*]~[8][*]をプッシュするとNo.1~8のリレーが3秒後にON、
[1][#]~[8][#]をプッシュするとNo.1~8のリレーが5秒後にOFFする

AT!VF3	CN5の用途を8制御出力に設定
AT!SF0=9!SF1=9!SF2=9!SF3=9!SF4=9!SF 5=9!SF6=9!SF7=9	制御出力0~7 (CN5のNo.2~No.9)を9の動作(メモリー照合遅延ラッチ動作)に設定
AT!SB0=1!SB1=1!SB2=1!SB3=1!SB4=1!SB 5=1!SB6=1!SB7=1	制御出力0~7 (CN5のNo.2~No.9)がON条件の制御番号を1に設定
AT!O1=30	制御時間番号1に3秒の遅延時間を設定
AT!SA0=2!SA1=2!SA2=2!SA3=2!SA4=2!SA 5=2!SA6=2!SA7=2	制御出力0~7 (CN5のNo.2~No.9)がOFF条件の制御番号を2に設定
AT!O2=50	制御時間番号2に5秒の遅延時間を設定
AT!X0=1!X1=2!X2=3!X3=4!X4=5!X5=6!X6 =7!X7=8	制御出力0~7 (CN5のNo.2~No.9)をONにするメモリー番号を1~8に設定
AT!Y0=21!Y1=22!Y2=23!Y3=24!Y4=25!Y5 =26!Y6=27!Y7=28	制御出力0~7 (CN5のNo.2~No.9)をOFFにするメモリー番号を21~28に設定
AT!SE0=1!SE1=1!SE2=1!SE3=1!SE4=1!SE 5=1!SE6=1!SE7=1	制御出力0~7 (CN5のNo.2~No.9)が受信した信号に応じた動作を行う
AT&Z1=1*&Z2=2*&Z3=3*&Z4=4*&Z5=5*&Z6 =6*&Z7=7*&Z8=8*	メモリー番号1~8にDTMF[1][*]~[8][*]を登録する
AT&Z21=1#&Z22=2#&Z23=3#&Z24=4#&Z25= 5#&Z26=6#&Z27=7#&Z28=8#	メモリー番号21~28にDTMF[1][#]~[8][#]を登録する

※上記設定後は、AT&W(設定の保存)を行い、電源を入れ直します。

例6) 自動着信後、外線電話機の[1]～[8]をプッシュするとNo.1～8のリレーがONし、3秒後にOFFする

AT!VF3	CN5の用途を8制御出力に設定
AT!SF0=9!SF1=9!SF2=9!SF3=9!SF4=9! !SF5=9!SF6=9!SF7=9	制御出力0～7 (CN5のNo.2～No.9)を9の動作(メモリー照合ワンショット動作)に設定
AT!SA0=0!SA1=0!SA2=0!SA3=0!SA4=0! !SA5=0!SA6=0!SA7=0	制御出力0～7 (CN5のNo.2～No.9)がOFF条件の制御時間番号を0に設定
AT!00=30	制御時間番号0に3秒の遅延時間を設定
AT!Z0=1!Z1=2!Z2=3!Z3=4!Z4=5!Z5=6! !Z6=7!Z7=8	制御出力0～7 (CN5のNo.2～No.9)をメモリー番号1～8で実行する
AT!SE0=1!SE1=1!SE2=1!SE3=1!SE4=1! !SE5=1!SE6=1!SE7=1	制御出力0～7 (CN5のNo.2～No.9)が受信した信号に応じた動作を行う
AT&Z1=1&Z2=2&Z3=3&Z4=4&Z5=5&Z6=6 &Z7=7&Z8=8	メモリー番号1～8にDTMF[1]～[8]を登録する

※上記設定後は、AT&W(設定の保存)を行い、電源を入れ直します。

例7) 自動着信後、外線電話機のTK-9610BTのO1～O4接点を、プッシュボタンに対応するバイナリコードでON/OFFし、O5接点を、何れかのボタンをプッシュしている間、ONする(表8-1参照)

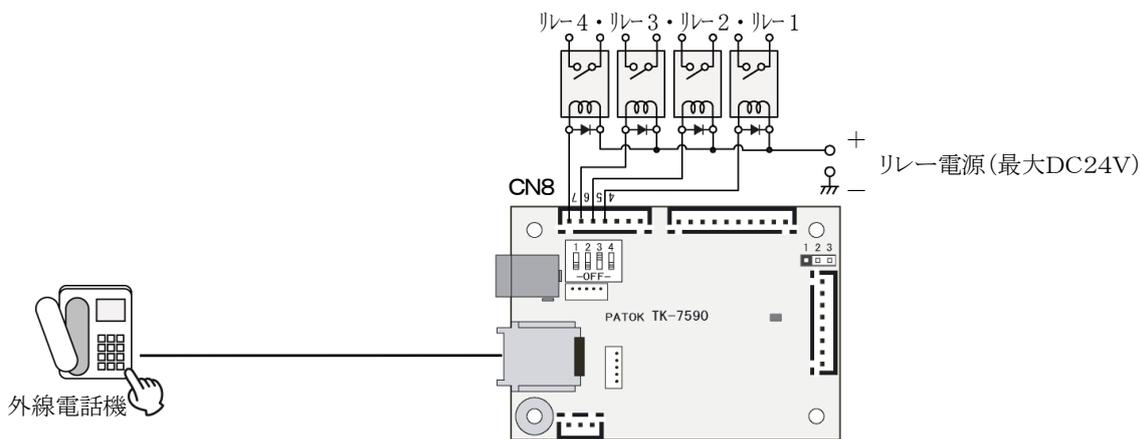
AT!VF3	CN5の用途を8制御出力に設定
AT!SF0=1!SF1=2!SF2=3!SF3=4!SF4=19!SF8=5	制御出力0～3をバイナリD1～D4、制御出力4を論理和(正論理) 制御出力8をバイナリDVに設定
AT!SE0=1!SE1=1!SE2=1!SE3=1!SE8=1	制御出力0～3、8を受信した信号に応じた動作を行う
AT!X4=8!Y4=8!Z4=8	制御出力4を遅延DV(約10ms)

※上記設定後は、AT&W(設定の保存)を行い、電源を入れ直します。

表8-1 プッシュボタンとO1～O4の関係

プッシュボタン	解析値	TK-9610Bの接点				
		O1	O2	O3	O4	O5
		D1	D2	D3	D4	DV
D	0	OFF	OFF	OFF	OFF	
1	1	ON	OFF	OFF	OFF	
2	2	OFF	ON	OFF	OFF	
3	3	ON	ON	OFF	OFF	
4	4	OFF	OFF	ON	OFF	
5	5	ON	OFF	ON	OFF	
6	6	OFF	ON	ON	OFF	
7	7	ON	ON	ON	OFF	
8	8	OFF	OFF	OFF	ON	
9	9	ON	OFF	OFF	ON	
0	10	OFF	ON	OFF	ON	
*	11	ON	ON	OFF	ON	
#	12	OFF	OFF	ON	ON	
A	13	ON	OFF	ON	ON	
B	14	OFF	ON	ON	ON	
C	15	ON	ON	ON	ON	

[B] CN8に一般リレーを接続して行う（最大4個）



【図8-2】 CN8のNo.4～7をリレー駆動端子として使用

例1) 自動着信後、外線電話機の [1][*]～[4][*]をプッシュするとNo.1～4のリレーがON
[1][#]～[4][#]をプッシュするとNo.1～4のリレーがOFFする

AT!D0=18!D1=19!D2=20!D3=21	CN8のNo.4～7を制御出力18～21に設定
----------------------------	-------------------------

※制御出力18～21のデフォルト操作は [1]～[4][*] でON、[1]～[4][#] OFFです
このデフォルト操作の変更を以下、例2)、例3)で示します

有効ボタン



例2) 自動着信後、外線電話機の [1]～[4]をプッシュするとNo.1～4のリレーがON、放すとOFFする

AT!D0=18!D1=19!D2=20!D3=21	CN8のNo.4～7を制御出力18～21に設定
AT!SF18=6!SF19=6!SF20=6!SF21=6	制御出力18～21を6の動作（ワンプッシュ動作）に設定
AT!SB18=1!SB19=2!SB20=3!SB21=4	制御出力18～21を[1]～[4]に設定
AT!SE18=1!SE19=1!SE20=1!SE21=1	制御出力18～21の動作を「受信した信号により行う」に設定

有効ボタン



例3) 自動着信後、外線電話機の [1]～[4]に続いて[*]を押している間、リレー1～4がON

AT!D0=18!D1=19!D2=20!D3=21	CN8のNo.4～7を制御出力18～21に設定
AT!T1=1	[*]の入感が無くなり1秒（設定範囲の最小値）後にOFFに設定

有効ボタン



9 各種動作状態の接点出力

本装置の動作状態の変化が、CN8のNo.4～7に接続したリレーでON/OFFの接点出力として得られます
下記は出荷時の設定です

- No.4に接続したリレー（リレー1）を、回線電流を検知中ONにする
- No.5に接続したリレー（リレー2）を、回線極性を検知したらONにする
- No.6に接続したリレー（リレー3）を、コールプレグレストーン※を検知したらONにする
- No.7に接続したリレー（リレー4）を、音声を検知したらONにする

AT!D0=27	CN8のNo.4を制御出力27に設定
AT!D1=31	CN8のNo.5を制御出力31に設定
AT!D2=32	CN8のNo.6を制御出力32に設定
AT!D3=27	CN8のNo.7を制御出力27に設定

※コールプレグレストーン

オフフックしたときのダイヤルトーンや、話中のビジートーンなどの
400Hz トーン

「AT!D」の行を編集することで様々な動作設定が可能です。

各種の動作項目については「リファレンスマニュアル 15動作状態確認」を参照して下さい。

応用参考例

その1)

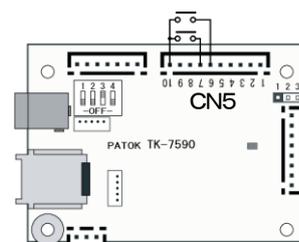
自動着信後、CN5に接続した2個のスイッチのON/OFF状態を個別にアンサーバックする。(AVのみ)

[1] [#] を押すと、CN5のNo.6がONの時は音声メモリーNo.1を、OFFの時は音声メモリーNo.3を再生

[2] [#] を押すと、CN5のNo.7がONの時は音声メモリーNo.2を、OFFの時は音声メモリーNo.4を再生

AT!VF0	CN5の用途を「8制御入力」に設定
AT!SF4=10!SF5=10	制御出力4、5をアンサーバックに設定
AT!X4=1!X5=2	制御出力4、5をONにするメモリー番号を1、2に設定
AT!Y4=3!Y5=4	制御出力4、5をOFFするメモリー番号を3、4に設定
AT!Z4=21!Z5=22	制御出力4、5をメモリー番号21、22で実行する
AT!SE4=1!SE5=1	制御出力4、5を「受信した信号により行う」に設定
AT&Z1=01!G1=18	メモリー番号1に音声メモリー番号1を登録し、グループ番号18に設定する
AT&Z2=02!G2=18	メモリー番号2に音声メモリー番号2を登録し、グループ番号18に設定する
AT&Z3=03!G3=18	メモリー番号3に音声メモリー番号3を登録し、グループ番号18に設定する
AT&Z4=04!G4=18	メモリー番号4に音声メモリー番号4を登録し、グループ番号18に設定する
AT&Z21=1#	メモリー番号21に1#を登録する
AT&Z22=2#	メモリー番号22に2#を登録する

2個のスイッチのON/OFFを
音声で確認



その2)

自動着信後、暗証番号を確認して操作受付。

外線電話機の [1] ~ [4] をプッシュすると、リレー1~4が設定時間ON、併せてアンサーバックも行う。(AVのみ)

①暗証番号入力を要求・・・メッセージ1を再生 (暗証番号待機中は、ピピピ音で入力要求)

②暗証番号を0081にする

③暗証番号一致の時・・・メッセージ2を再生

〃 不一致の時・・・メッセージ3を再生 (暗証番号待機中は、ピピピ音で入力要求)

④ [1] を押すとリレー1を1秒間ON、メッセージ4を再生・・・ “〇〇が動作中です” など

⑤ [2] を押すとリレー2を1秒間ON、メッセージ5を再生・・・ “□□が動作中です” など

⑥ [3] を押すとリレー3を1秒間ON、メッセージ6を再生・・・ “△△が動作中です” など

⑦ [9] を押すとリレー4を1秒間ON、メッセージ7を再生・・・ “強制終了をします” など

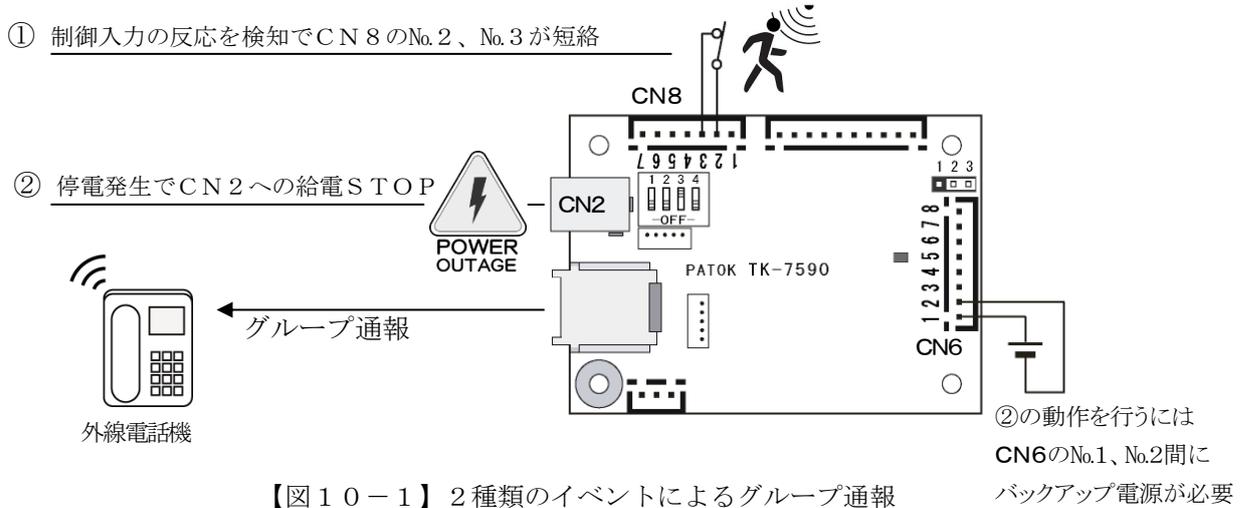
有効ボタン



AT!B1	「暗証番号」の送信要求
AT!M0=0081	「暗証番号」を0081に変更(デフォルトは1234)
AT&Z70=81	メモリー番号70に81を設定(音声メモリー番号1)
AT&Z76=90	メモリー番号76に90を設定(暗証番号入力要求音:ピピピ音)
AT&Z77=82	メモリー番号77に82を設定(音声メモリー番号2)
AT&Z78=83	メモリー番号78に83を設定(音声メモリー番号3)
AT!D0=18!D1=19!D2=20!D3=21	CN8のNo.4~No.7を制御出力18~21に設定
AT!SF18=9!SF19=9!SF20=9!SF21=9	制御出力18~21の動作を「メモリー照合遅延ラッチ」に設定
AT!SA18=0!SA19=0!SA20=0!SA21=0	制御出力18~21がOFF条件の制御時間番号を0に設定
AT!00=10	制御時間番号0に1秒の遅延を設定する(1秒間ONする)
AT&Z1=1&Z2=2&Z3=3&Z4=9	メモリー番号1~3に1~3を、メモリー番号4に9を登録する
AT!Z18=1!Z19=2!Z20=3!Z21=4	制御出力18~21をメモリー番号1~4で実行する
AT!SE18=1!SE19=1!SE20=1!SE21=1	制御出力18~21を「受信した信号により行う」に設定にする
AT&Z51=04&Z52=05&Z53=06&Z54=07	メモリー番号51~54に音声メモリー番号4~7を登録する
AT!G51=18!G52=18!G53=18!G54=18	メモリー番号51~54をグループ18(音声メモリーグループ)に設定する
AT!SF42=10!SF43=10!SF44=10!SF45=10	制御出力42~45の動作を「アンサーバック」に設定
AT!X42=51!X43=52!X44=53!X45=54	制御出力42~45をONにするメモリー番号を51~54に設定する
AT!SE42=2!SE43=2!SE44=2!SE45=2	制御出力42~45を「制御入出力の変化により行う」に設定にする

■ 10 グループ通報を行う設定

【図10-1】の接続で、グループ通報を行います。通報源となるイベントには以下の2種類があげられます。



【図10-1】2種類のイベントによるグループ通報

① 制御入力の反応によるグループ通報

例)

CN8のNo.2がOFFからONに変化したときに通報を行う。

感知したら、30秒後に、電話番号「0827-24-0081」と「0827-24-1444」に通報する。

通報手順は「暗証番号確認」とし暗証番号を「5678」する。音声メモリーNo.1に録音したメッセージを再生する。(AVのみ)

AT&Z0=0827240081	メモリー番号0 (グループ番号0) に0827-24-0081を登録する
AT&Z1=0827241444	メモリー番号1 (グループ番号0) に0827-24-1444を登録する
AT!A1	通報手順を「暗証番号確認」にする
AT!M0=5678	「暗証番号」を5678に変更 (デフォルトは1234)
AT!I17=3000	制御入力 (CN8のNo.2、No.3)の変化を検知後30秒に応答する
AT!SF17=15	制御入力 (CN8のNo.2、No.3)の変化をグループ通報する
AT!SA17=0	通報を行うグループ番号を0にする
AT!G75=18	メモリー番号75をグループ番号18にする
AT&Z75=01	メモリー番号75に音声メモリー番号01を登録

② 停電検知によるグループ通報

例)

停電を感知したら、10秒後に、電話番号「0827-24-0081」と「0827-24-1444」に通報する。

通報手順は「グループ全員応答」とする。音声メモリーNo.1に録音したメッセージを再生する。(AVのみ)

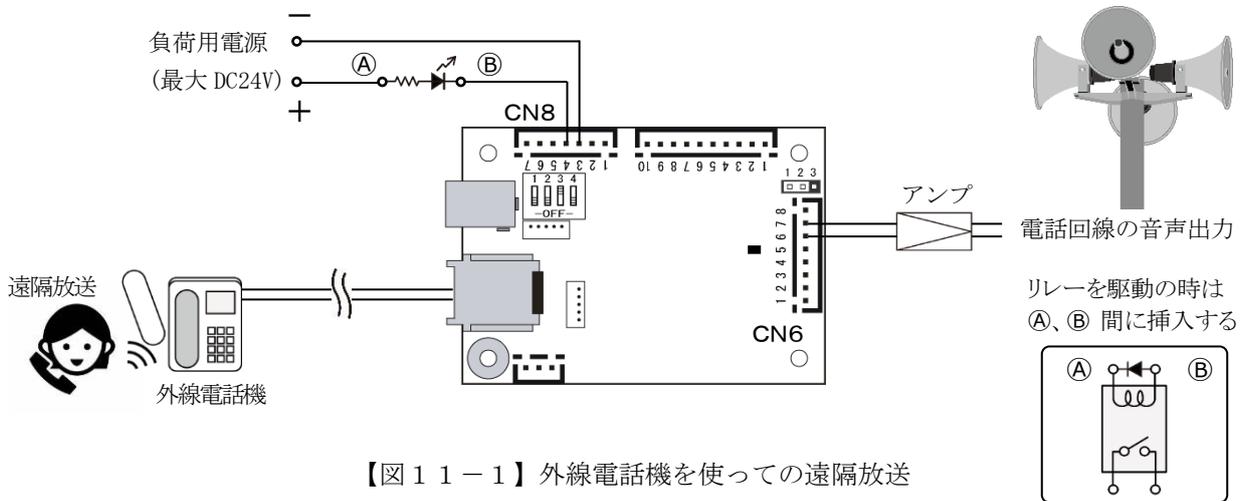
AT&Z0=0827240081	メモリー番号0 (グループ番号0) に0827-24-0081を登録する
AT&Z1=0827241444	メモリー番号1 (グループ番号0) に0827-24-1444を登録する
AT!A2	通報手順を「グループ全員応答」にする
AT!I16=1000	停電検知入力 (CN2への給電STOP)の変化を検知後10秒に応答する
AT!SF16=15	停電検知入力をグループ通報する
AT!SA16=0	通報を行うグループ番号を0にする
AT!G74=18	メモリー番号74をグループ番号18にする
AT&Z74=01	メモリー番号74に音声メモリー番号01を登録

■ 1.1 外線電話機から遠隔放送を行う設定

【図 1.1-1】の接続で、回線成立後、外線電話機からの遠隔放送が可能です。
 CN 6 の受話信号出力端子No. 6 - No. 7 より、「電話回線の音声出力」を、
 CN 8 の情報出力端子No. 4 (オープンドライブ) より、「外部回路へのドライバー出力」を
 それぞれ取出すことができます。

例) 自動着信後、「暗証番号」を送信。暗証番号受付後、放送を行う。オフフックで放送終了。
 (暗証番号を 0081 とする)

AT!B1	「暗証番号」送信要求
AT!M0=0081	「暗証番号」を 0 0 8 1 に変更 (デフォルトは 1 2 3 4)
AT!D0=27	CN 8 の No. 4 が自動着信すると ON



■ 1 2 回線モニターの設定

通常のオフフック(回線接続)とは異なり、回線に音声を重畳するための出力が入りません。

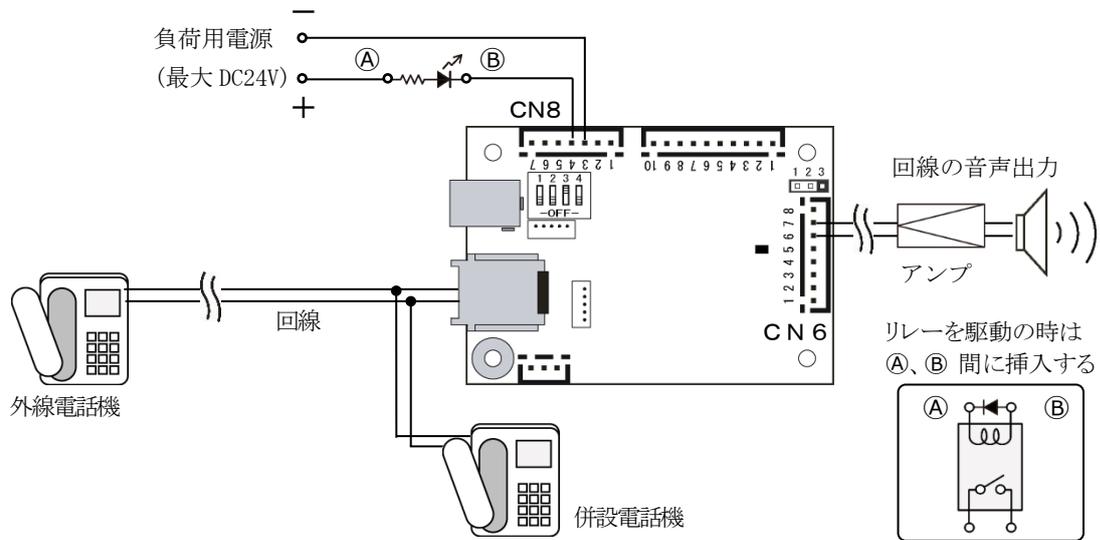
回線のインピーダンスが高く保てるので、回線に併設した電話機に及ぼす影響を最小限に止めることができます。

併設電話機でオフフックすると、CN 6 より回線の音声が出力されます。

併せて、CN 8 より外部機器の起動信号を取り出します。

AT!VP1	回線のモニターを行う
AT!D0=25	CN 8 のNo.4 が回線接続中と回線モニター動作中ON

※回線の声が大き過ぎますと(併設電話機からの声)、オフフックすることがあります。



【図 1 2 - 1】 外線電話機と併設電話機の通話をモニター

■13 疑似交換機のご案内

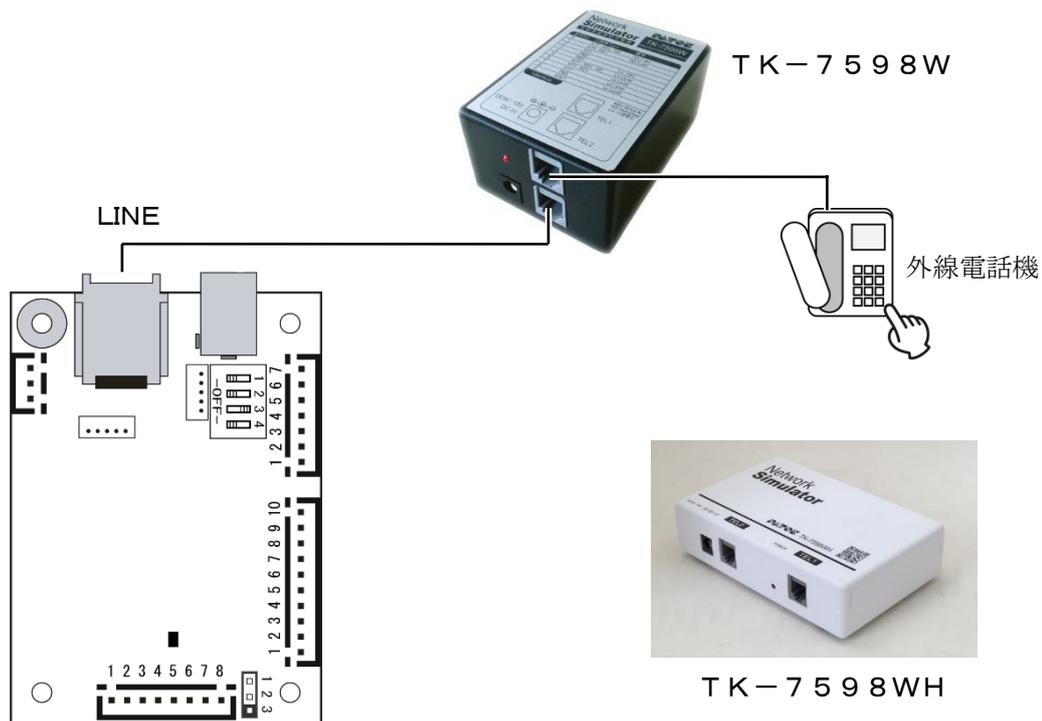
本製品は、電話網のシミュレーションを行うための疑似交換機で、日本の発信電話番号受信機能(ナンバーディスプレイ)に対応しています。

以下の機能を備え、本装置の各種設定や通信確認に威力を発揮します。

- 電話機やFAX等の電話端末設備を、加入者回線に接続することなく試験やデモンストレーションができます。
- 代表的な日本交換機の場合、設定により、信号アッテネータが入りますので、厳しい試験ができます。
- 設定により、内線(外線「0」発信)の48V回線または24V回線のシミュレーションができます。
- 設定により、代表的な日本NTT交換機と米国AT&T交換機の信号を発生できます。
- 各回線は独立設定のため、1回線は代表的な日本NTT交換機、もう1回線は米国AT&T交換機のような使い方ができます。
- 本装置は、2線式電話端末設備用です。故障の原因となる場合がありますので2線式電話端末設備以外には接続しないで下さい。
- 小型・軽量です。

[TK-7598W] 幅 60mm×高さ 40mm×奥行 85mm(100g)

[TK-7598WH] 幅 125mm×高さ 32mm×奥行 80mm(150g)



【図 1 3 - 1】 疑似交換機を利用しての各種の設定・動作確認

PATOK
松本無線パーツ株式会社岩国
〒740-0018
山口県岩国市麻里布町4-14-24
TEL(0827)24-0081(代)
FAX(0827)24-1444

2022.2